

週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月22日(火)

《マリアの讃歌 -神様は高く、私たちは低く-》

人間は、それぞれ自分の色を持っています。赤、青、黒、いろいろな色がありますが、皆様はどのような色を持っているのでしょうか。

人が色を持っている、というのは、人種による色、黒色人種、白色人種、そして私たちのような黄色人種を言うのではありません。それぞれの人には、必ず色があります。ある人は、とても明るくて、温かい色、ある人はすごく暗くて冷たい色。世の中には、いろいろな色を持って生きているのが人間です。

信仰者も、長い信仰を持っていると薫がします。本当に信心深い、信仰深い人の側に行くと明るくて敬虔な雰囲気を感じさせる薫がします。しかし、信者なのに暗くて、いつも気分を悪くさせる、落ち込ませるにおいのする信者もいます。私たちが望んでいるのは、明るくて、「この人のそばにいれば祈れる。神様のことが分かるような気がする。」という雰囲気です。それを私たちは、作らなければなりません。しかし、長い時間をかけて作られた性格や人柄は、年をとればとるほど、変えるのが難しくなります。ですから、年齢が上であればあるほど、頑張らなければなりません。私を含めて、皆が頑張らなければならないと思います。

さあ、今日の福音(ルカ 1・46-56)で、マリア様が神様に対して讃歌を歌いましたね。マリア様の人柄の薫がよく表れている祈りです。いわゆる『マリアの讃歌』と言われるこの祈りの中の一番大きなテーマは何でしょうか。それは、「高慢な者を打ち散らし、謙遜な者を高めてくださった神様を讃美します。」です。それが、このマリア讃歌の一番重要な部分です。

このような歌を自然に歌えるマリア様の人柄、その薫を私たちも見習う必要があります。でも、見習いたいと思っても、私たちにはなかなかできません。現実のいろいろな難しさにぶつかってしまいます。しかし、皆様にもたぶんこのような経験があると思います。「自分の力では解決できないと思ったことが、ある日突然簡単に解決されたこと」「本当に難しく感じられて、何の希望も持てなかったのに、ある日全く知らない人の助けによって解決できたこと」そのような経験が子どものときから今まで、何回かはあったと思います。そして、そのときは感謝の気持ちを感じていたのに、だんだん時間と共に「そういうことがあった」くらいの気持ちで通り過ぎてしまう、それが多くの私たちの態度ではないでしょうか。しかし、助けてもらったことに、偶然はありません。そこには必ず神様の介入があり、神様がともにいてくださったから問題が解決したのです。「これは自分の力だ」、「これは偶然だ」と思ってしまうのが高慢です。そういう高慢さを持っている人には、絶対にできないことがあります。それは感謝をすることです。

今まで何回も繰り返して申しあげましたが、感謝の心がなければ、それは信仰者ではありません。「失敗しても成功しても、そこにはイエス様がともにいてくださったと思う強い心」、「少し大変な時には、神様が守ってくださるから大丈夫、と自分を励ますことができる心」、「成功した時には、自分の力ではなくて神様がこのように導いてくださったから、このような栄光を体験できた、と感謝する

心」そういう心で感謝の歌を歌うのが私たちの一番基本的なそして望ましい態度ではないかと思いません。

もし失敗があれば、「神様に信頼感を持たなかったから、このように失敗しました。私のせいです。赦してください。」と祈るべきです。そして、自分が考えた以上の成果があれば、その時には感謝すべきです。皆様にこのような心になってほしいのです。この心があれば、必ず祝福は与えられます。高慢な者は祝福さえ、偶然とか自分の蔭だと思えます。しかし、そうではありません。祝福は神様がくださる宝物です。そういう気持ちで信仰の生活を続けようとするれば、必ずいつも祝福が私たちに与えられます。

今日のマリア讃歌を通してもう一回考えてみましょう。信仰者は、時間が経てば経つほど、低くならなければなりません。そして、神様は逆に高くならなければなりません。この基本的な態度を保つことができれば、私たちには、失敗はありません。そして、理論的でなく、感覚的な「これは喜びである」という体験ができると思います。

ありがとうございました。